

1. 会 員 数

	平成 18 年 3 月 31 日	平成 19 年 3 月 31 日
会 員	5,367 名 (正会員 5,029 団体 338)	5,326 名 (正会員 4,988 名 団体 338)
賛助会員	16 社	16 社

2. 事 業

1) 日本小児保健学会の開催

第 53 回日本小児保健学会は、山梨大学大学院医学工学総合研究部母子看護学 大山 建司教授を会頭のもと、平成 18 年 10 月 26 日（木）・27 日（金）・28 日（土）の 3 日間、「子どもを取り巻く危機にどう立ち向かうか」をテーマとして、アピオ甲府（山梨県）において開催された。参加者数は、1,300 名であった。

2) 役員会等の開催

全国理事会 2 回、支部長会 2 回、常任理事会 4 回、評議員会 1 回、合同委員会 1 回、編集委員会 6 回、予防接種・感染症委員会 2 回、発育委員会 1 回、小児救急の社会的サポートに関する委員会 5 回、新生児委員会 1 回、学校保健委員会 1 回、栄養委員会 1 回、小児医療委員会（チャイルドシート検討委員会）1 回、乳幼児健診システム委員会 2 回、平成 22 年度幼児健康度調査委員会 1 回を平成 18 年度に開催し、本協会の事業遂行上必要な案件を協議、決定し運営した。

3) 機関誌等の刊行

雑誌「小児保健研究」を 6 冊（第 65 巻 3 号～第 66 巻 2 号）刊行した。また、小児保健シリーズとしては、No.60「予防接種 2006」を刊行した。

4) 小児保健セミナーの開催

第 23 回小児保健セミナー「予防接種 2006」を、平成 18 年 6 月 18 日（日）野口英世記念会館において開催し、参加者は 273 名であった。

5) 協会活動

①編集委員会、予防接種・感染症委員会、発育委員会、小児救急の社会的サポートに関する委員会、新生児委員会、学校保健委員会、栄養委員会、小児医療委員会（チャイルドシート検討委員会・事故予防委員会）、乳幼児健診システム委員会、平成 22 年度幼児健康度調査委員会、健やか親子 21 第 4 課題推進会

議委員会のそれぞれが本協会の目的のために活動した。

②平成 18 年度小児保健協会活動助成が下記の通り決定し、第 53 回日本小児保健学会総会時に表彰式を行った。

《研究助成》

○ 田中沙季子・山口絵梨子・棚町祐子・他（木村留美子研究室）

「保育園看護職者の役割に関する実態調査第 1～3 報」

○ 河野由美・他（東京女子医科大学母子総合医療センター）

「極低出生体重児の頭囲発育と認知能力との関連」

《実践活動助成》

○ 大分県小児保健協会 木下 博子（大分こども病院育児支援グループ）

「大分こども病院における誤飲事故の発生調査と予防に関する検討と広報活動」

○ 岩手県小児保健協会 小西 峯生（もりおかこども病院小児科）

「重症児在宅医療の開拓と向上」

《発達臨床研究賞》

○ 根ヶ山 光一・他（早稲田大学人間学部）

「母子におけるくすぐり遊びとくすぐったさの発達」

（小児保健研究第 64 巻 3 号掲載）

③インドネシア・ジャワ島沖地震に義援金を拠出した。

6) その他

①日本小児科連絡協議会「子どもをタバコの害から守る」合同委員会を 4 回開催し、シンボルマーク「子どもは歩く禁煙マーク（案）」を作成した。引き続き目的に沿った活動を行う。

②日本小児科学会主催・日本小児保健協会共催「第 1 回子どもの食育を考えるフォーラム—子どもの食は大丈夫？—」を、平成 19 年 1 月 13 日（土）に、砂防会館別館にて開催した。

③平成 19 年度中央選挙管理委員会委員長および委員を選出し決定した。

3. 平成 18 年度総会

平成 18 年度総会は、平成 18 年 10 月 27 日（金）、アピオ甲府（第 53 回日本小児保健学会）において出席者 259 名に委任状 2,371 通を加え、会員の過半数に達したことを確認した上、議長に大山建司会頭を選出し、議事録署名人に太田百合子・日暮 眞両会員を指名し開催され、下記の各議案が承認された。

- 1) 平成 17 年度事業報告・収支決算報告・監査報告およびその承認
- 2) 平成 18 年度事業実施報告
- 3) 平成 19 年度事業計画案（自 平成 19 年 4 月 1 日～ 至 平成 20 年 3 月 31 日）
- 4) 平成 19 年度収支予算案
- 5) 定款改正の件

(I) 平成 19 年度事業計画（案）

1) 日本小児保健学会の開催

第 54 回日本小児保健学会は、群馬大学大学院医学系研究科生体防御学機構小児生体防御学分野 森川 昭廣教授を会頭として、平成 19 年 9 月 20 日（木）・21 日（金）・22 日（土）の 3 日間、群馬県民会館（群馬県前橋市）を会場として開催される。テーマ「社会が子どもにもっとできること」

2) 機関誌等の刊行

「小児保健研究」を年内に 6 冊刊行する。また、小児保健シリーズを 1 冊以上刊行し、支部活動に役立てる。

3) 講演会等の開催

支部と共同して、母子保健指導研修会を含む研究会・講演会等を開催する。

4) 教育普及の拡充

協会の事業として教育普及の拡充につとめる。

第 24 回小児保健セミナーは、「乳幼児期の食育—食育の観点から子育て支援を考える—」をテーマとして、平成 19 年 6 月 10 日（日）文京シビックホール（小ホール）にて開催予定である。

5) 協会活動の充実

小児保健協会活動助成（研究助成・実践活動助成・発達臨床研究賞）の授賞者の決定および表彰を行う。

本協会の目的に役立つ事業の実施につとめる。

(II) 平成 19 年度収支予算案が承認された。

4. 平成 18 年度収支決算報告

平成 18 年度収支決算は、平成 19 年 9 月開催の第 54 回日本小児保健学会総会にて承認の手続きがとられる。

5. 平成 18 年度名誉会員

北海道：南部 春生

岡山：守田 哲朗

6. 人事について

支部長交代	(地区)	(旧)	(新)
	秋 田	神坂 陽	小松 和男
	宮 城	飯沼 一字	土屋 滋
	福 島	鈴木 仁	鈴木 順造
	栃 木	有阪 治	白石裕比湖
	神奈川	松山 秀介	後藤 彰子
	三 重	駒田 美弘	多喜 紀雄
	滋 賀	大矢 紀昭	竹内 義博
	愛 媛 故	貴田 嘉一	小谷 信行

7. 訃 報

名誉会員 名誉会員 小林 収 平成 18 年 12 月 5 日

8. 支部活動

全国 47 支部が活動を続けている。また、各地における小児保健研究会、母子保健指導研修会の共催・後援、「こどもの健康週間」（日本小児科学会主催）の後援および参加をはじめとし、各種関連事業を後援している。

9. 第 55 回以降の日本小児保健学会会頭について

1) 第 55 回日本小児保健学会会頭

札幌医科大学医学部小児科学教室
教授 堤 裕幸

2) 第 56 回日本小児保健学会会頭

大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学講座小児科学
教授 大藪 恵一

10. その他

1) 定款改定について

2) 平成 19 年度役員および代議員（評議員）改選について